



サステナビリティ

日本調剤グループは、サステナビリティを中長期的な企業価値向上に向けた経営戦略の重要事項と認識しています。あらゆるステークホルダーとの対話・協働のもと、人権を尊重し、環境保全に配慮した公正で透明性の高い経営基盤を構築します。そして、事業活動を通じて医療・ヘルスケア分野における社会課題の解決に取り組み、社会の持続可能性を追求していきます。



Who we are

トップメッセージ

私たちがつくりたい未来

持続的な経営基盤の強化

事業戦略

サステナビリティ

コーポレート・ガバナンス

データ

06

サステナビリティ

- 基本方針、体制
- マテリアリティ
- 取り組み
- CSR座談会

サステナビリティ戦略

当社グループは、サステナビリティを中長期的な企業価値向上に向けた経営戦略の重要事項として位置付け、持続可能な社会課題の実現に向けた取り組みを実施しています。

2024年度は、調剤薬局店舗における電灯LED化の推進、医薬品製造販売事業におけるPTP包装廃材や汚泥のマテリアルリサイクル、医薬品製造工場での太陽光発電の推進等、環境負荷の低減に向けた資源の循環利用に取り組むとともに、地域の健康を支えるため、医療機関やNPO法人と協働してCSR活動を推進し、ステークホルダーの皆さまとともに持続可能な地域社会の実現を目指してまいりました。

今後の中長期的な取り組みとしては、当社グループの持続的成長および企業価値向上に資するKPIを設定するとともに、気候変動への対応やサーキュラーエコノミーへの寄与など、環境分野をはじめとしたサステナビリティの取り組みをさらに推進していきます。今後も「すべての人の『生きる』に向き合う」という使命を掲げるヘルスケアグループとして、社会課題の解決に貢献するとともに、長期的視点に立った企業成長を実現することで、ステークホルダーの皆さまのご期待に応えていきます。

「長期ビジョン2035」におけるサステナビリティ目標

課題	目標	施策	2024年度実績
気候変動への対応	Scope1、2原単位 (2020年度比) 2030年度まで 調剤薬局事業 1店舗当たり30%減 医薬品製造販売事業 生産1億錠当たり30%減 2050年度まで カーボンニュートラル	調剤薬局事業 ●店舗電灯LED化 2024年度202店舗 2025年度100店舗(予定) CO ₂ 削減量: 1店舗当たり47.5%減 医薬品製造販売事業 ●ソーラーパネル設置 CO ₂ 削減量 ●カーボンニュートラル都市 1億錠当たり16.0%減 ガス導入	
	エネルギー 転換	再生可能エネルギー 比率向上 ●自家発電 再生可能エネルギーへの 転換 再生可能エネルギー比率: 6.8%	
サーキュラー エコノミーへの 寄与	廃棄物 リサイクル	リサイクル対象を拡大 ●廃棄物の回収、再生、再利用 処理量/全廃棄量 ●PTPシート ●汚泥 ●ファイバードラム ●PTPシート26.3% ●汚泥48.9%	

サステナビリティ推進体制

当社グループはサステナビリティ基本方針に則り、サステナビリティ経営を行っています。サステナビリティにおける重要事項の決定は取締役会が行います。また、取締役会の直属の機関としてサステナビリティ委員会を設置しています。代表取締役社長が委員長を務める本委員会は、原則として1事業年度に2回以上開催し、特定したマテリアリティに対する取り組みの進捗の総括と評価、事業戦略への落とし込み、国際的なガイドラインの遵守、参画の協議などを行い、適宜、取締役会に報告・答申します。サステナビリティの取り組みは責任部門を明確にし、グループ会社を含む各部門が進めています。サステナビリティ課題に対する執行機能はサステナビリティ統括室が担い、サステナビリティ統括の執行役員の管掌のもと、各部門と連携しながら着実に取り組みを進める体制を構築しています。

サステナビリティ委員会の活動状況

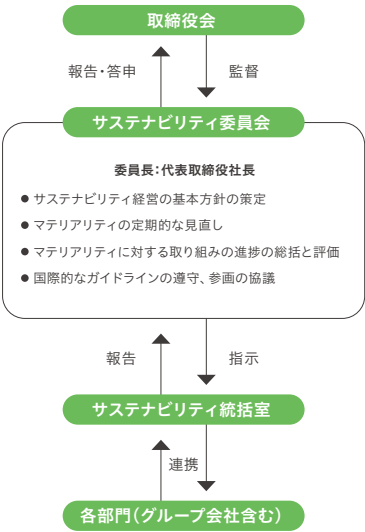
活動状況(2024年度)

- 開催回数 3回
- 主な議論の内容
 - Scope1、2、3の算定・開示
 - CO₂削減施策の検討
 - マテリアリティ見直しの検討
 - 人的資本経営と人材戦略
 - サステナビリティ醸成につながるCSR活動

サステナビリティ開示体系

サステナビリティ情報をステークホルダーの皆さまに網羅的に開示することを目的に「Sustainability Data Book」を公開しています。

サステナビリティ基本方針、推進体制等、サステナビリティマネジメントの詳細につきましてはこちらをご覧ください。



サステナビリティ

- 基本方針、体制
 - マテリアリティ
 - 取り組み
 - CSR座談会

マテリアリティ

日本調剤グループが取り組む6つの重要課題グループ

持続可能な社会への貢献と継続的な企業価値の向上を果たしていくために、日本調剤グループはマテリアリティ（重要課題）を特定しています。6つの重要課題グループに大別されるこのマテリアリティを踏まえて、事業活動を通じた貢献と経営基盤の強化の両面から取り組みを進めていきます。

21のマテリアリティおよびマテリアリティの特定プロセスについては、サステナビリティサイトをご参照ください

<https://www.nicho.co.jp/corporate/sustainability/materiality/>

重要課題グループ	分類	目指す姿	概要
A 医療のクオリティとアクセシビリティ	事業活動を通じた貢献	すべての人が高品質な医療にアクセスできる社会へ	薬局機能を強化します。具体的には、高度医療や地域医療への対応、未病・予防のサポート、医薬品の適正使用による社会保障への貢献、災害対応や医療安全、DX によるオンライン医療推進と新規ビジネス創出、調査・研究などを進めます。
B 医薬品の品質と安定供給		すべての人が医薬品を安心して使える社会へ	高品質で安全性の高い医薬品の研究開発・製造と、安定供給を実現します。
C 医療機関の人的課題の解消		高度な医療を支える人材を世の中へ	良質な医療サービスに向けた人的支援と、産業医紹介による健康と労働衛生の支援を行います。
D カーボンニュートラル・サーキュラーエコノミーへの寄与	経営基盤の強化	持続可能な地球環境を未来世代へ	廃棄物の削減とリサイクル、エネルギー利用の効率化と再生可能エネルギー利用によるCO ₂ 削減、環境・社会配慮と透明性に優れたサプライチェーンの構築を進めます。
E 多様な人材の育成と活躍		すべての従業員が能力開花できる土壌へ	会社の成長を支える人材確保とその力をさらに伸ばす人事制度、人権尊重ならびに女性活躍・DE&Iの推進、従業員の健康と働きがいを増進する職場確立を進めます。
F 社会的責任を果たすためのガバナンス強化		社会的責任を果たすヘルスケアグループへ	難病や障害などの医療福祉領域への支援、コーポレート・ガバナンス強化と透明性のある情報開示、コンプライアンス重視と腐敗防止、リスクの適正な評価と対応による機会創出を実現します。

マテリアリティ優先度マップ

重要課題グループ

- A 医療のクオリティとアクセシビリティ
- B 医薬品の品質と安定供給
- C 医療機関の人的課題の解消
- D カーボンニュートラル・サーキュラーエコノミーへの寄与
- E 多様な人材の育成と活躍
- F 社会的責任を果たすためのガバナンス強化



Who we are

トップメッセージ

私たちがつくりたい未来

持続的な経営基盤の強化

事業戦略

サステナビリティ

コーポレート・ガバナンス

データ

06

サステナビリティ

基本方針、体制

● マテリアリティ

取り組み

CSR座談会

2024年度の進捗ハイライト

▶ 医薬品製造工場でのリサイクル

マテリアリティ 12

薬局と工場をはじめとした廃棄物の削減と資源利用の効率化

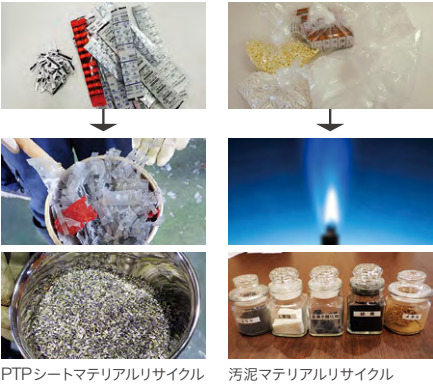
2024年度実績

PTPシート 84.50t(全体の26.3%)
汚泥 41.33t(全体の48.9%)

2025年度以降の目標

対応工場の拡大

日本ジェネリックでは、不要になったPTPシートと工場から排出される汚泥のマテリアルリサイクルを進めています。2024年度日本ジェネリックのつくば第二工場が排出したPTP包装廃材の廃棄量は31.29t相当であり、これらがマテリアルリサイクルの対象となります。これまでの焼却処理と比較すると、約9割のCO₂発生量を削減する効果が見込まれます。また、2024年度から医薬品の製造過程で排出される汚泥の一部でマテリアルリサイクルを開始しました。2024年度につくば第二工場が排出した汚泥28.57tは、焼却処理後の残渣21.08tをすべてマテリアルリサイクルしています。これにより、焼却灰や飛灰を一切発生させず、埋め立て処分量は0となり、完全に再資源化しました。



PTPシートマテリアルリサイクル

汚泥マテリアルリサイクル

▶ 薬局電灯のLED化、
医薬品製造工場での太陽光発電

マテリアリティ 13

エネルギー利用の効率化と再生可能エネルギー利用によるCO₂削減

2024年度実績

202店舗でLED化を実施

2025年度以降の目標

LED化未対応の約100店舗をLEDへ切り替え

LED化

日本調剤では、薬局1店舗当たりにおけるCO₂排出量を、2020年度比で2030年度までに30%削減するため、2023年度より薬局店舗の電灯LED化を実施しています。蛍光灯を利用していた約460店舗のうち、2023年度には97店舗、2024年度には202店舗をLED化し、2025年度でのLED化の完了に向けて着実に進んでいます。



電灯LED化を実施した店舗

太陽光発電

日本ジェネリックと長生堂製薬では、太陽光発電による再生可能エネルギーの活用を推進しています。日本ジェネリックのつくば工場では、東京センチュリー株式会社と京セラコミュニケーションシステム株式会社から、寄付型コーポレートPPA(自家発電サポートサービス)の提供を受け、太陽光発電設備を導入しています。太陽光発電設備で発電した再生可能エネルギー電力を使用することにより、年間約347.1t-CO₂のCO₂を削減します。



つくば第二工場の太陽光発電設備

サプライチェーンへの働きかけ

医薬品卸配送回数削減

当社では、2023年4月から、医薬品卸売業者と連携して、薬局店舗への医薬品配送回数の削減に取り組んでいます。薬局チェーンの強みを活かした在庫管理を行い、従来は1日に約2〜3回だった配送回数を、1日1回へ減らすことで、CO₂削減や業務の効率化につながっています。今後もサプライチェーンの最適化に向けて、取引企業とのエンゲージメント活動を推進していきます。

子どもたちの学びを支援する「SDGsラジオ」

当社では、株式会社ケシオンが運営する教育コンテンツ「SDGsラジオ」で、全国の児童・生徒・学生向けにラジオを配信しています。展開している10種のコンテンツでは、人々の健康を支えるヘルスケアグループとして、薬を正しく使うことの重要性や薬剤師の社会的な役割、自身の健康管理の大切さについてわかりやすく伝えています。

配信中のラジオ

- お手頃の価格の薬で、人々の健康を支える
- 私たちの健康を支える「薬」のプロ
- 生理の痛み悩む人へ
- 世界最強の薬はないの？
- すばらしい財産を社会全体で共有する「ジェネリック医薬品」
- 体験してみよう！薬剤師のお仕事
- 飲んでいるお薬、記録していますか？
- 余った薬をムダにしないために
- 薬剤師ってどうしたらなるの？
- 無理なダイエットはやめよう



サステナビリティの社内浸透を強化

従業員一人ひとりが「すべての人の『生きる』に向き合う」という使命を自分事として捉え、社会の持続可能性に貢献する意識を生み出すため、2024年度からサステナビリティの社内浸透を行っています。まず、エンゲージメントサーベイを用いて従業員のサステナビリティ意識の現状把握と分析を行い、従業員に合わせた社内浸透施策を検討しています。2024年度は、サステナビリティに関する基礎的な知識をクイズ形式で学習するWeb社内報の連載(計10回)を実施しました。日本調剤グループが行っているサステナビリティの取り組みも併せて紹介し、自社へのエンゲージメント向上を目指しています。



取り組み

Who we are

トップメッセージ

私たちがつくりたい未来

持続的な経営基盤の強化

事業戦略

サステナビリティ

コーポレートガバナンス

データ

06

サステナビリティ

基本方針、体制

マテリアリティ

● 取り組み

CSR座談会

06

サステナビリティ

基本方針、体制

マテリアリティ

取り組み

● CSR座談会

「目の前の一人」にできることから。 日本調剤グループの サステナビリティ最前線

2024年に策定された「長期ビジョン2035」では、「誰もが一番に相談したくなるヘルスケアグループへ」という日本調剤グループのありたい姿を掲げています。本業を超えた社会課題へのアプローチとして、各地の薬局でのCSR活動に取り組むなか、社員自身が何を感じ、どのように取り組み、どのような価値を見出しているのか。それぞれ異なる立場でCSRに関わる3人が、日々の実践から見てきたことを語り合いました。

薬剤師(茅ヶ崎南薬局)
市川 友滉

執行役員
櫻井 琢也

薬剤企画部(CSR担当)
道下 恵梨香

「薬局の外」でも、人と向き合う力を育てる

市川 藤沢駅前薬局に勤務していた時期に、当時の課長から地域の聴覚障がい者向けイベントへの参加を勧められたのが、CSR活動に関わるきっかけでした。実は、学生時代に観た映画の影響で、聴覚障がいの方の世界に関心を持つようになっていたんです。そういう背景があったので、「薬剤師として自分に何ができるか」を深く考える前に、まずは現場に行ってみようと思ったのが正直なところでした。

道下 とても素敵なきっかけですね。私がCSR担当として活動を始めたのは2022年頃です。神奈川県聴覚障害者福祉センターや、きょうだい児支援^{※1}の薬剤師体験などを中心に取り組みを進めてきましたが、当初は社内はまだCSRという言葉自体が十分に浸透しておらず、「どうすれば現場の薬剤師にも伝わるか」と悩みながらのスタートでした。でも、市川さんのように、もともと関心を持っていたり、「参加してみたい」という自然な動機がある方が現場にいと、そこから活動が広がっていくことも多く、手応えを感じています。

櫻井 こうした従業員一人ひとりの主体的な関わりは、会社としても非常に心強いものです。日本

調剤グループでは2010年代後半から、サステナビリティ経営をどう進めるかを議論してきました。「すべての人の『生きる』に向き合う」というグループ理念の私たちの使命に込めたのは、医療従事者の枠を超えた社会的役割を従業員一人ひとりが体現していくこと。その一歩としてCSR活動が社内で機能しはじめていることには、大きな意味があると感じています。

気づきが広がり、現場から社会への関わりへ

市川 実際にイベントに参加した際、同席していた手話ができる方に教えていただきながら、参加されていた聴覚障がいの方に簡単なあいさつや自己紹介で「よろしくお願いします」と伝え、思いがけないほど喜んでいただけました。「こちらから関わろうとする姿勢に、こんなにも温かい反応が返ってくるのか」と驚くと同時に、薬局では出会えなかった方々との接点が、自分の仕事に新たな視点を与えてくれました。医療だけでなく、地域社会とどう関わるかを考えるきっかけになったと思います。

道下 そうした“現場での気づき”こそが、活動の出発点になっていくんですね。たとえば、活動のなかで、聴覚に障がいのある方の中には服薬に課題を感じながらも、それをうまく薬局に伝えるこ

※1 保護者の注意が病気や障がいのあるきょうだいに集中しがちななかで、その子の抱える不安や寂しさに寄り添い、健やかな成長を支えるための支援活動。



櫻井 琢也
2000年に薬剤師として入社。店舗勤務、支店長、本社部門など多様な経験を経て、現在は執行役員 グループ経営企画部長。「社員の主体性と社会貢献が企業の信頼を支える」と捉え、経営の視点から現場の取り組みを後押ししている。

とができずにいた方がいらっしゃることがわかりました。課題を知っていると、一包化^{※2}など、薬局で解決のための提案をすることができます。また、オンライン服薬指導を活用すれば、遠隔地でも手話ができる薬剤師とつながることが可能になります。薬に関する正確な情報を届けるのはもちろん、「伝わった」という安心感を相手が持てるかどうかが大事で、そのことを改めて教えられる経験になりました。実際に、手話ができる薬剤師が対応した際に「とても助かりました」と感謝の言葉をいただけたこともありました。

櫻井 まさに、専門性と配慮が融合した現場の創意工夫ですね。企業としてCSRを考える時、制度や枠組みだけではなく、現場の従業員一人ひとりが「目の前の相手が何ができるか」を考えて行動している姿こそ価値があると思っています。

道下 きょうだい児支援の現場においては、障がいを抱える兄弟姉妹がいるお子さんのなかに「自分には何もできない」と感じている子も少なくありません。そんな子に「薬剤師のお仕事を体験してみようか」と声をかけると、目が輝きはじめるんです。参加者のなかに「将来くすりに関わる仕事がしたい」「大きくなったからお兄ちゃんを治してあげたい」と話してくれたお子さんもあり、胸がいっぱいになりました。短い体験でも「自分にもできることがある」と思えるきっかけがあると、子どもたちのなかに希望や自信が芽生える。そんな成長の瞬間に立ち会えることの重みを感じています。

市川 こうしたCSR活動は、従業員の社員のなかから「こういう支援がまだ届いていないのではないか」「何かできることはないか」という声があったからこそ、始まったものなんですよ。実際に参加してみると、相手のためというより、自分自身が多くを学ばせてもらえる。そんな実感があります。

櫻井 現場から生まれる学びや手応えが、社内の他の拠点にも波及していくのを感じています。CSR活動は、特別な誰かが行うものではなく、地域や社会のなかで「医療に携わる者として何ができるか」を一人ひとりが考え、行動に移すことそのものです。そしてその姿勢こそが、日本調剤グループのこれからの価値を形づくっていくはずですよ。これはCSR活動に限らず、すべての施策に通じる視点だと感じています。

社内外の“変化”が生む、新しい価値の芽

道下 活動を続けるなかで印象に残っているのが、ある従業員の方から「うちの会社って、こんな活動もしていたんですね」と驚かれた場面です。日々業務に追われるなかでCSRの取り組みを知り、「会社の
※2 服用のタイミングが同じ薬を、1回の服用分ずつ1袋にまとめること。



道下 恵梨香
2011年に医療事務として入社。薬局勤務を経て、2020年より本社勤務。現在は薬剤企画部係長として調剤システム開発とCSR活動を担当。「CSRは“心に届く”医療の原点」と語り、社内外の声に寄り添い続けている。

新たな一面を知った」と言っていただけたことが、誇りややりがいにつながっていると感じました。支援の現場では、相手の理解や反応を観察しながら、どうすれば思いが届くかを自然と考えるようになります。そうした丁寧な関わりが、大きな安心感につながると実感する場面もあり、「伝えること」「伝わること」の本質に気づかされる経験ばかりです。
市川 自分の言葉で話しかけたり、相手の反応をよく見ることは、薬局の現場でも大切な視点です。CSR活動を通じて「相手が何を求めているのか」をより繊細に考えるようになりました。また、参加して気づいたのは、「薬局の外で自分がどう動けるか」を考える機会が今まであまりなかったこと。地域のイベントに関わるなかで、「薬剤師の仕事には、もっと多様な形があるのかもしれない」と感じ、見えている世界が少し広がった気がします。

道下 社員一人ひとりの視野が広がるのが、いずれ会社の可能性を広げるのだと感じています。ただ、現状はまだ私たちの部署や、市川さんのように一部の社員が参加する活動に留まっているのが正直なところです。この意識や気づきを、いかにして社内に広げていくかを考えていきたいです。

「理念の実践」が、新しい文化を育てていく

櫻井 CSR活動もサステナビリティ経営も、一部の人がだけが考えて取り組むものではないと考えています。また、私たちのグループ理念は、単なるスローガンではなく、従業員の社員一人ひとりが実践しているものです。日々の業務のなかでも「目の前の人の役に立ちたい」という思いから自発的な行動が生まれている。それこそが日本調剤グループらしいサステナビリティの姿だと思います。今後も、多くの従業員がサステナビリティに関心を持つきっかけをつくり、関与していけるものにする、また、そこで得た経験を活かして動ける環境を整えながら、社会との信頼関係を着実に築いていきます。一人ひとりの実践を大切に、「すべての人の『生きる』に向き合う」姿勢を、地域のなかで深め、次世代へとつないでいきたいです。

2024年度 活動例

きょうだい児のための薬剤師体験イベントを開催

2024年8月にきょうだい児支援に注力するNPO法人の協力のもと、きょうだい児を対象とした薬剤師体験イベントを開催しました。普段さまざまな感情と向き合いながら成長しているきょうだい児が、調剤室の見学や模擬調剤体験を通して、保護者とともに楽しく医療への理解を深めてもらう機会を創出しました。



TOPIC



市川 友規
2024年に薬剤師として入社。藤沢駅前薬局、大船薬局勤務を経て、現在は茅ヶ崎南薬局の店舗責任者。地域のCSR活動に関わるなか、「CSRは新しい出会い」と実感。現場での実践を通して役割の幅を広げている。

Who we are

トップメッセージ

私たちがつくりたい未来

持続的な経営基盤の強化

事業戦略

サステナビリティ

コーポレートガバナンス

データ

06

サステナビリティ

基本方針、体制

マテリアリティ

取り組み

● CSR座談会